（別添資料１）

事業所名　療育支援エフ　平和教室

支援プログラム

作成日　8 年 6 月 12 日

法人（事業所）理念	将来の自立に向けた支援を行い、1つでも多く、将来の選択肢を増やしていく												
支援方針	脳機能（ワーキングメモリ）・社会性のトレーニングをメインに行い、現状でのコミュニケーションスキルや課題点への支援、将来に向けた社会性の向上を図る												
営業時間	平日	10	時	00	分から	19	時	00	分まで	送迎実施の有無	あり		
	学校休校日	9	時	00	分から	18	時	00	分まで				
休業日	日曜日・お盆（8月13日～16日）・年末年始(12月30日～1月3日)												

		支　援　内　容
本人支援	健康・生活	健康管理：お迎え時、来所時の体調チェック・検温　/　手洗い・うがいの促し　/　定時水分補給 生活：身辺処理、持物管理・活動・片付け等を自主的に行えるようルーティン化、時間提示 お買い物（おやつ時、昼食購入時）を日々行い、予算内で必要なものを買うこと、支払い時の対応を行う 食事：クッキングや課外活動を通じて、自分で出来る事を増やし、食育を通し、食事への興味・関心を持ち、知識を身に付ける
	運動・感覚	手指を使った細かい作業：カリキュラムでは目で判断し、指を動かすもの、細かい作業を行うものに取り組む 指先の巧緻性・力加減：洗濯ばさみや紐・ビーズ等を使った作業、セラピーパテを使ったトレーニングを行う バランス感覚・体幹：バランスディスクやボールを活用し、アプローチする　/　遊びの中でもレゴやアイロンビーズ、バランスゲームを行う
	認知・行動	認知行動：カリキュラムを活用し、収集した情報を基に行動に繋げる、指示を聞き、そのように行動する、等の活動を行う タブレットやプリント、バランスストーン、ビーズ・洗濯ばさみ・ブロックなどを通し、物の認識、図形・色の認識、空間認識能力の向上を図る 感情の概念・コントロール：SST（ソーシャルスキルトレーニング）を通して、感情の概念、感情のコントロールを学ぶ その他：遊びの中で、アイロンビーズやレゴ、パズル・カードゲーム等を通し、認知・行動への支援を行う
	言語 コミュニケーション	非言語：絵カードの活用、ハンドサインや、指差し・身振りを活用し、意思伝達の機会を増やす 言語・指示理解：普段から伝え方についてアプローチを行い、関わり方を学ぶ またSSTを遠し、感情のコントロール、行動のコントロールに対してもアプローチを行う 伝える事が苦手な生徒さんへのアプローチ：言葉を発さなくても伝えられるようにする（分からない時などのヘルプカード等の活用）徐々にコミュニケーション方法を増やしていく 文章読解：カリキュラムを通して文章読解の力を深める（3ヒントゲーム、文章の記憶、事実の整理等）
	人間関係 社会性	人間関係・社会性：SSTのカリキュラムを日々取組み、本児が課題としていることを一緒に考え、見直していく 実際に正しい行動が取れた際には、成功体験として得ることが出来るよう、褒める等、評価を行う 遊びの中でも声掛けの方法や、勝ち負け等を通しての感情のコントロール、クールダウン方法をアプローチする 課外活動を通して、集団行動を行う上でのルール・マナーを身に付ける

家族支援	半年に1回の定期面談の他、必要に応じ、適宜面談等を行う 児童の発達　/　支援内容　/　家庭生活　/　集団生活 きょうだい児　/　などに関する相談・助言等を実施	移行支援	インクルージョンへ向けた取り組み 教室での療育を通し、出来るようになった行動を学校や家庭、外の環境でも同様に行えるよう支援を行う 学校や家庭と連携し、アプローチ方法を共有する
地域支援・地域連携	教育機関、医療機関、児童相談所等の専門機関との連携を図る ケース検討の会議への出席等	職員の質の向上	職員研修：新人研修、支援者研修等、定期的に職員に向けた研修を行う。 グループワークを通して共通認識を持つ マナー研修、リーダー研修（伝え方等を含む） 虐待防止・身体拘束に関する研修、事故防止・感染症対策に関する研修、 災害に関する研修・訓練の実施
主な行事等	制作活動、クッキング活動、季節に関する活動、SSTグループワーク、課外活動（工場見学や、収穫体験、博物館など）等、様々な経験を遠し、知識や興味を育む		